森づくり最前線

群馬森林管理署　万場・楢原森林事務所
首席森林官　黒澤　晴男

楢原森林事務所

楢原森林事務所は、上毛カルタで読まれている「鶴舞う形の群馬県」の右翼部分の上野村内に位置しており上野村と神流町、藤岡市の一部を管轄しています。管内の国有林の面積は約９４００haです。森林事務所の職員は首席森林官１名、森林技術員１名、行政専門員１名の３名体制となっています。当森林事務所管内での過去の出来事としては、歴史的な大ニュースとして、群馬県と長野県境に位置している御巣鷹山国有林の山中に日航ジャンボ機が墜落し、多くの尊い人命が失われる大惨事が発生しました。その事故から３４年経過した今でも御巣鷹山への慰霊登山及び慰霊行事が毎年行われてきています。

御巣鷹山登山道

さて当森林事務所の管内では近年、造林木への獣害が特にひどく、多大な獣害対策費を費やしております。特にニホンジカやカモシカ等が多く、なにもしなければスギやヒノキ等は植えた側から食い荒らされてしまいます。被害を最小限に抑えるため造林地周辺に防護柵を作ったり、単木保護として造林木１本毎にクワンタイ等のシェルターを設置したりして保護していますが、獣害対策の経費が予想以上にかかり大変な状況となっています。

以前だったら伐採跡地に地拵えをして植栽し、その年の夏に下刈をしてという流れでしたが、地拵えと同時にシカ柵等の設置作業を行い、その後に植付けという工程にならざるを得ません。これも自然環境の変化による造林作業種の追加ということなのでしょう。時代にあった森林施業を着実に実施していく以外に方法はありません。

シカ単木保護状況
（鍋割国有林43林班）

また、昨年は台風１９号により民有林だけでなく国有林の林道も想定外の被害を受け、獣害対策をしなければならない造林地までの林道等が閉ざされてしまいました。林道等の被害調査は徒歩により行いましたが、被害の確認ができるまで相当な時間がかかりました。このように近年の災害は、１００年に一度といわれるほどに巨大化し、長時間の異常な降雨による激甚災害を東日本全域にもたらしています。この傾向はこれからも頻繁に起こる災害であると推測されます。以前でしたら伐採したらある程度の期間は再造林をしなくても山づくりができたと思いますが、これほど毎年の異常災害を受ける時代になると、伐採した跡地の更新は早急に復元してやらないと災害の原因を作ってしまう恐れがあると思います。特に皆伐箇所跡地で急傾斜地の場所は、更新を早める必要があると感じています。

今は以前よりいっそうの自然災害に強い山づくりが求められていると感じています。これからも国民から信頼される森林づくりを目指して業務に励んでまいりたいと思います。

上野ダム付近より
本谷国有林
71林班方面の眺望